



「伊豆LEMON BEER」を披露する宇佐美麦酒製造の加藤泰克社長(中央)とレモン生産者の永井正人さん(左)、JA職員(右)

News 02 「伊豆LEMON BEER」リニューアル より香り高く深い味わいへ

伊東市の宇佐美麦酒製造は、JAとのコラボを記念し、クラフトビール「伊豆LEMON BEER」を3月25日にリニューアル発売しました。原料に「伊豆レモン」の3品種を使い、ブレンドしたことで味に深みが増し、レモンを手で一つずつ丁寧にむいて果皮だけを使うことで爽やかな香りとお皮のほろ苦さが特長のビールに仕上がっています。

News 03 新茶の初取引 なんすん地区と富士地区が上場

4月20日、静岡市の静岡茶市場で新茶の初取引が行われました。当JAからは、なんすん地区の「さえみどり」「やまのいぶき」の煎茶、富士地区からは「静印雑131」の紅茶、「やぶきた」のかぶせ茶などが上場され、今季の取引が本格的に始まりました。

今年から同市場では、従来の相対取引に加え、新たに電子入札方式を導入。売り手が事前に出品内容を電子システムに登録し、当日に最低販売希望価格を決め、買い手が価格を提示し、最も高い価格を示した買い手に落札される仕組みです。



なんすん地区の上場茶取り引き成立の「手打ち」

News 05 信頼される職員へ 決意新たに 令和8年度新採用職員入組式

4月1日、令和8年度新採用職員の入組式を行い、54人がJAふじ伊豆の一員となりました。

梶穀組合長は「あなたに会えてよかったと言われる職員になるよう頑張してほしい」と激励。代表のカスタニエダ・クラウディア職員が「組合員の皆さまに信頼される職員になるよう成長し続けていく」と決意を表明しました。



代表で決意を述べるカスタニエダ職員

News 04 営農アドバイザー 一人1課題発表報告会 生産現場の課題解決へ8人が成果発表

組合員や生産部会が抱える課題解決を目的に、52人の営農アドバイザーの中から各地区代表8人が3月5日、担当する作物の農業振興に向けた取り組みの成果を発表しました。

最優秀賞は佐野瑛海職員、優秀賞は中村善昭職員が受賞。佐野職員は高温障害に苦しむ枝豆出荷組合への対応、中村職員は玉葱部会の将来戦略をテーマに発表しました。

News 01 管内生産者が品評会で多数入賞 花卉や柑橘、畜産、シイタケ品評会などで受賞

1月から4月にかけて、関東東海・県の品評会などが行われ、管内の生産者の方々が最高位など多数入賞されました。各品評会の上位受賞者は次の皆さまです。敬称略、()かっこ内は地区名

第74回関東東海花の展覧会

- 金賞・農林水産大臣賞：山田 和司(伊豆太陽)・鈴木 顕一(伊豆太陽)
- 金賞：田村 安雄(伊豆太陽)・木村 富男(伊豆の国)
- 銀賞：田村 丞(伊豆太陽)・山田 弘志(伊豆太陽)・山田 和司(伊豆太陽)
萩原 敏明(伊豆太陽)・渡辺 綱男(伊豆太陽)
- 銅賞：田村 雄大(伊豆太陽)・磯 清彦(伊豆太陽)・遠藤 邦彦(富士)
渡邊 勇暁(富士)・渡辺 佐喜子(伊豆太陽)



▲関東東海花の展覧会で金賞1席農林水産大臣賞を受賞した鈴木さんのキンギョソウ(左)と山田さんのカーネーション(右)

第45回 静岡県乾椎茸箱物品評会

- 金1席・林野庁長官賞
小柳出 勝(伊豆の国)
- 金2席・静岡県知事賞
山田 勇(伊豆の国)
- 金3席：桑名 二郎(伊豆の国)
- 金4席：山田 勇(伊豆の国)
- 金5席：石井 隆一(伊豆の国)
- 金6席：小柳出 勝(伊豆の国)



▲林野庁長官賞を受賞した小柳出さんの乾シイタケ

第46回 静岡県中晩生柑橘品評会

- 一等賞：田村 政一(伊豆太陽)
- 二等賞：稲葉 安雄(あいら伊豆)・山田 康人(伊豆太陽)
- 三等賞：高羽 勇(伊豆太陽)・山田 康人(伊豆太陽)・木村 征二(あいら伊豆)
木村 捷男(伊豆太陽)・大川 貴生(あいら伊豆)

FUJIZU News Clip

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

JAふじ伊豆はSDGs「1~17の目標」につながる取り組みを行っています。

★各所に記載のマークはSDGs目標アイコンです。

旬のお知らせは他にもたくさん！
YouTubeでチェック



第57回 静岡県ブラック&ホワイトショウ

ジュニアチャンピオン(未経産の部・第1部出品牛)
大美伊豆牧場(伊豆の国)



▲ジュニアチャンピオンに輝いた大美伊豆牧場の高橋さんご家族

第41回静岡県花の展覧会

金賞・農林水産省関東農政局長賞
田村 俊宣(伊豆太陽)
金賞・静岡県知事賞
鈴木 博文(伊豆太陽)・木村 富男(伊豆の国)
金賞：鈴木 顕一(伊豆太陽)・山田 和司(伊豆太陽)

第60回静岡県貯蔵ミカン品評会

優等賞：渡辺 淳(なんすん)

日本さつまいもサミット2025-26

ファーマーズ・オブ・ザ・イヤー：三島甘藷部会

▼喜びを見せる平野光直部会長(中央)と遠藤次次副部会長(中央右)





見本を見て出荷規格を確認



News 11 畑ワサビ今期初出荷へ 目ぞろえ会

需要高まり生産拡大へ

あいら伊豆蔬菜部会は4月8日、畑ワサビの目ぞろえ会を開き、出荷に向け規格などを確認しました。栽培は3期目を迎え、生産者の技術向上に加え、冬場の乾燥や寒さ対策の効果により品質が向上。1株当たりの収穫量も昨年の約2倍に増加しました。加工業者からの需要も高く、今後は生産者数と生産量の拡大を図り、農業所得の向上を目指します。



JA職員が播種作業を確認



News 13 自然災害への対策強化 ワサビBCP策定へセミナー開催

修善寺宮農経済センターは3月4日、品目別振興計画の一環として「わさび経営の農業BCP入門編セミナー」を聞きました。生産者やJA職員、行政関係者らが参加し、講師からBCP(事業継続計画)の目的や策定方法を学習。自然災害時の対応策や課題について意見交換を行い、経営の安定化に向け理解を深めました。



ワサビ田での通信手段や災害対策などの課題を共有



News 10 富士市産農産物を マルシェで発信

新鮮野菜や詰め放題が好評 来場者に地元の魅力PR

富士地区営農販売課は3月1日、富士市中央公園で開催されたマルシェに出店し、地場農産物を販売しました。

イチゴやキャベツ、カリフラワーなどの新鮮野菜が並び、柑橘やキウイフルーツの詰め放題も好評。「富士市にはおいしいものがいっぱい」との声が聞かれ、地場産の魅力の発信につながりました。



地場産ミカンなどの詰め放題に挑戦



ドローンの実演を見学する茶生産者たち

News 07 大型ドローンで 茶園作業を省力化

重労働の効率化を検証 独自の助成事業導入も

富士宮営農経済センターは3月9日、富士宮市内の茶園で70kgタイプの大型ドローンを用いた実演会を開きました。

経済連独自のコーティング肥料による樹上施肥や露払いなど4つの重労働を検証し、省力化と効率化の可能性を提示。作業を希望する市内生産者に助成事業で支援していきます。



News 06 農福連携で弁当店オープン 地域食材を活用した弁当で農業振興図る

三島市のNPO法人「にじのかけ橋」は、市内に弁当店「お弁当屋 農福にじかけ食堂」を開きました。「おなかにやさしい腸活弁当」をコンセプトに、発芽酵素玄米弁当や日替わり弁当を提供しています。利用者が育てた野菜や「みしまるかん」の農産物を活用し、地域資源を生かした食の提供を通じて、地域農業の振興につなげます。



目玉商品の発芽酵素玄米弁当(左)と日替わり弁当(右)を紹介する施設利用者



News 12 乾田直播栽培の 導入試験2年目

省力化とコスト削減へ普及検証

JAや御殿場市、県東部農林事務所、米生産者らで組織する「御殿場市みどりの農業推進協議会」は、市内の水田で水稲V溝乾田直播栽培の導入試験を行っています。

2年目となる本年度は栽培面積88アールを予定。同栽培は専用機で種子と肥料を乾田に直接まき、育苗や移植が不要で、省力化とコスト削減が期待されます。



頼重市長(左)に手揉み茶を手渡す大嶋会長ら会員



News 08 手揉み茶で福祉施設に笑顔 香り豊かな沼津茶を市内7施設へ

沼津茶手揉保存会は3月2日、福祉施設利用者に香り豊かな「沼津茶」の手揉み茶を味わってもらおうと、同会の大嶋繁幸会長らが沼津市役所を訪れ、頼重秀一市長に手揉み茶1.2kgを贈呈しました。同取り組みは31回目となり、贈呈したお茶は市内7カ所の福祉施設に届けられました。

認定書を手に産地の発展を誓う飯田健二部会長(中央)



News 09 有機農法部会が「みどり認定」取得 品目拡大に意欲

伊豆太陽地区有機農法部会は3月17日、環境負荷低減の取り組みが評価され静岡県の「みどり認定」を取得し、認定書交付式が行われました。

県賀茂農林事務所管内でのグループ認定は初で、地域内の有機物を活用した資源循環型農業が評価されました。同部会は今後、品目拡大や生産者数の増加にも力を入れていきます。